

平成五年 文部大臣年頭の所感

文部大臣 森山眞弓

特集

芸術文化支援の新たな展開

巻頭言

10 文化支援について思う

・鈴木治雄

インタビュー

12 企業による芸術文化支援の方向性

・塚本幸一／（聞き手）日紫喜恵美

16 芸術文化支援に求めるもの

・森下洋子／（聞き手）有松育子

論文

20 「バブル後」の企業メセナ

・根本長兵衛

24 芸術文化支援の根底にあるもの

・倉林義正

エッセイ

28 感性は「場数」で磨かれる

・残間里江子

事例紹介①

30 地域に根ざした文化の振興のための実践

・（財）東洋信託文化財団

事例紹介②

33 真に豊かでゆとりのある地域社会の実現を願って

・（財）よんでん文化振興財団

事例紹介③

36 アマチュア・オーケストラ支援活動

地道に継続して12年 ・トヨタ自動車株式会社

事例紹介④

38 芸術文化を通じた社会貢献について

・日本アイ・ビー・エム株式会社

事例紹介⑤

40 郷土の未来のための黒子役

・林原グループ

事例紹介⑥

42 芸術文化支援による地域文化の発掘 「ふるさと交響楽」づくりを中心に

・岩谷産業株式会社

資料

44 民間企業等による 芸術文化支援活動に関するデータ

46 芸術文化助成財団協議会会員一覧

48 芸術文化支援に関するQ&A

50 文化政策推進会議審議状況について

カラー

1 知の宝庫—博物館
屋久町立屋久杉自然館（鹿児島県）

4 まつり風土記
八戸のえんぶり（青森県）

表2 名作シリーズ
四季山水図屏風

表3 文化財紹介
白山麓の積雪期用具

54 人・この道
那須武雄

55 教育・文化と地域づくり⑩
北海道上湧別町

58 焦点—文教施策

70 私の本棚から
尾上久雄

71 ことばの小箱／やさしい教育用語の解説

72 ニューススポーツ・レクリエーション
チュックボール

74 ふるさとのうた
最上川舟唄

76 科学のひろば
国文学研究資料館②

78 海外教育ニュース

80 郷土に生きる教育家群像⑬
福岡県

84 編集後記

イラスト／赤羽根秀一・内部敬生・須田博行



教育・文化
と
地域づくり

10

かみゆうべつ
北海道 上湧別町

ユーモア感覚、地球サイズ

オホーツク国際漫画大賞 (コンテスト)

●北海道教育庁網走教育局生涯学習課長

佐藤雅之

一、花と漫画・S K I かみゆうべつ

「もの」から「心」へと価値観が移りつつあるなかで、人々が生き生きと活動し、精神的にも豊かな生活を送ることが大切である。そのため、地域に根ざした住民の文化活動を活発にするとともに、文化サークルの育成と施設の整備を図るなど文化的環境を醸成していく必要がある。

上湧別町では、二一世紀に向けたまちづくりの方向として「文化村」構想を描き、この構想の柱として、漫画文化の振興及び文化人招へい事業などを考えている。

特に、町のいたるところで栽培されている花（チューリップ）と漫画をキーワードとしてそれにS K I（クロスカントリースキー、好き）を加え、「花と漫画がS K Iになるまちづくり」をテーマに文化性豊かなまちの建設を目指している。

二、漫画を中心とした

まちづくりの推進

漫画は、私たちに夢と希望を与え、洋の東西、老若男女を問わず楽しさと笑いをもたらしてくれるものである。まちの文化的な土壌を豊かにする様々な試みのなかで、その柱に「漫画」を取り上げたことがユニークであり、注目の的になっている。



第2回オホーツク国際漫画大賞表彰式典

平成元年から漫画による地域づくりを開始し、翌年には、第一回目の「オホーツク国際漫画大賞（コンテスト）」を創設して、広く国内外からの作品募集を行った。そして、平成三年には、「第一回全国漫画サミット」を開催するなど、漫画文化を地域固有の文化として定着させるまちづくりを推進している。

また、著名な芸術家や文化グループを招き、芸術家に創作活動の場を提供することによって、芸術活動の向上を図っている。

更に、日ごろ接することのできない中央の優れた音楽や演劇のグループを招いて、鑑賞会を開催するとともに、町民自らの活動の充実を図りたいと考えており、将来は町全体を一大文化ゾーンにしようとする夢のある構想も掲げている。

三、オホーツク国際漫画大賞の創設

漫画によるまちづくりの第一段階として、平成二年八月、日本漫画家協会の協力を得て、新聞社との共催による「オホーツク国際漫画大賞」を創設した。

第一回目のテーマを「スポーツ」として作品を募集したところ、二三か国から予想を大幅に超える一三八八点もの、応募があり、そのうち、半数は海外からの作品であった。応募作品の中には、世界の一流漫画家からのものも多く、日本漫画家協会の加藤芳郎氏

四、新しい上湧別へ大きくステップ

漫画は、今や世界の文化として定着している。その漫画文化を通して魅力あふれるまちづくりを進めている自治体関係者が一堂に会し

はじめ九名の審査員は、入賞作品の選定に苦労したほどである。

第二回は、「花」をテーマとし、広く参加を呼び掛けたところ、日本を含む二七か国から一九三七点もの作品応募があった。

これまでのコンテストに寄せられた作品は、大変カラフルで、それぞれのお国柄を反映したものが多く、中にはその国の風俗、習慣や国民の考え方を知ってはじめてそのユーモアが分かるものもあった。

また、漫画のせりふが外国語で書かれているので、展示の際には、その意味を作品の横



第2回野外漫画学校

て、地域の現状や課題、将来への可能性を語り合うのが「全国漫画サミット」である。

このサミットには、埼玉県、長野県、岡山県などから七つの市町の自治体関係者が参加し、「列島漫画ネットワーク作り」と創造性豊かなまちづくりについて語り合い、巡回漫画展の開催、収集作品とイベント情報の交換など協力体制を強めていくことが確認された。

当日、「ユーモアを大切にするまちとまちが、漫画を媒体とした新しい文化の形成に向け、手と手をつなぐことを表明します」という共同声明が発表されている。

会場には、入賞作品の展示会も開催されており、なかでも雪で造った展示壁に展示された作品は、大好評を博し、そのアイデアは、「さすが漫画の町らしい発想」と、見学者一同から感嘆の声が上がるほどであった。

五、漫画振興協会の設立

漫画文化の一層の振興を目指し、町長を会長とする上湧別町漫画振興協会が設立されている。会員は、全国漫画サミット記念植樹の実施、家屋やシャッター、ウインドー等に漫画の壁画を描く事業等、数々の催しに住民が参加するための推進役として活躍している。

夏休みには、地元はもちろん、道内の小学生に呼び掛け、「オホーツク漫画学校in上湧別」を三泊四日の日程で開催している。道

★上湧別町の概況★

上湧別町は北海道の北東部、網走管内のほぼ中央に位置し、清らかな湧別川が中央を流れる人口約八八〇〇人の町である。

町は明治〇年、屯田兵によって開拓された豊かな土地をもち、玉ねぎやアスパラガス、小麦、てんさい、ジャガイモなどの畑作や酪農を主産業としている。

また、近年はチューリップの栽培も行われている。開花のシーズンになると、大きな風車を設置した町営のチューリップ公園には一〇〇万本のチューリップが咲き誇り、町民はじめ多くの観光客でにぎわっている。

に添える必要のあるものも含まれていた。

第三回目を迎える本年度は、「風」をテーマとし、三〇か国二〇〇点を超える応募数が予想されている。年々、応募国数、作品数が増加し、文字どおりこのコンテストは国際的になってきたといえる。

審査を終えた審査員各氏から「いろいろなコンクールの審査をしているが、地方で開催されるこの種の大会の作品としては、質、量とも最高峰である」「今後は、応募作品の中の夢のあるアイデアを生かし、それを具体化するなど地方でなければできない企画をしてみることも面白いのではないか」という貴重な意見をいただいた。

内各地から多くの児童生徒の参加があり、専門家による指導や大学の美術部の学生のアドバイス、町漫画振興協会会員による生活、レクリエーション指導等、漫画を通して子供たちに多くの夢と希望を与えている。

この期間中に子供たちが製作した壁画を街頭に展示し、町民に楽しんでもらう活動や小学校のプレイルームに、漫画を取り入れた標語を掲示するなど、当町は、子供から大人まで町民が一体となって、漫画を愛し、楽しんでいる状況にある。

六、漫画文化の情報発信基地

現在、漫画美術館を建設中であり、平成五年五月のオープンを予定している。

この漫画美術館は、漫画の歴史の紹介、原画や用具の展示、アニメ映画の上映などとはもとより、漫画学校開設などのイベントの開催も計画されており、まさに、日本の漫画文化の情報発信基地を目指している。

漫画はユニークな発想から生まれる。一見夢のような、あるいはトボけたような、そして反面まことに辛らつな批判精神をもっている。町の活性化を考える者にとって、漫画はまたとない同伴者であると考えられる。

上湧別町では、こうした漫画のもつ特性を理解し、町民が力を合わせて活力あるまちづくりを進めているところである。

特集 エイズ教育

◆巻頭言
エイズ教育に期待する 塩川優一

◆座談会
学校におけるエイズ教育を考える
出席者 竹井操／平山宗宏／福本絹子
南谷幹夫／司会 近藤信司

◆論文
エイズ教育の専門家として 武田 敏
エイズ患者の検診に当たる 根岸昌功
医師の立場から

◆エッセイ

◆事例紹介 草柳文恵
東京都教育委員会ほか

人・この道 東 三郎

教育・文化と地域づくり 長崎県郷ノ浦町

郷土に生きる教育家群像 香川県

編集後記

▽新年明けましておめでとうございます。今年も、「文部時報」が文部省の総合広報誌として一層充実するように、編集部一同頑張りますので御愛読のほどよろしくお願ひいたします。

▽暮れから正月にかけては、いろいろと伝統行事も多く日本の伝統文化を意識することが多くなりましたが、新年早々の今月号の特集は、「芸術文化支援の新たな展開」として、企業等による民間のメセナ活動を取り上げています。

これは、折からの芸術文化への国民的な関心の高まりと企業の社会貢献熱に乗って様々なメセナ活動が展開されている状況を受けての特集であります。

▽最近、新聞等においては、いわゆるバブル崩壊に伴ってメセナ活動の危機をうったえる意見も見られますが、本特集では「事例紹介」として、企業側からみた芸術文化支援についての考え方や具体的な取組も紹介しておりますので、我が国の芸術文化支援策について考える一助となれば幸いでありませう。

▽「教育・文化と地域づくり」では、北海道上湧別町の「オホーツク国際漫画大賞」を取り上げております。これは今では日本ばかりでなく世界からも作品が寄せられるほどになったという北国の漫画によるユニークな町おこしの紹介であります。

編集幹事が、小学校低学年のころに見た漫画は、「鉄人28号」や柔道少年の物語である「いがぐり君」であり、四〇年経つ今でも記憶に残っています。

漫画の力はほんとうに大きいと思います。上湧別町の漫画も地元多くの少年少女たちにすばらしい初夢を与えてくれたのではないのでしょうか。

(A・S)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿を歓迎します。本誌を読んだの感想、ご意見等をごしとお寄せください。

●投稿規定
①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

●送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三二二二

MESC 61 月刊

文部時報 1月号

第1393号

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 ギョうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2
電話 03-3268-2141(代表) 振替口座 東京9-161番

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成5年1月10日印刷
平成5年1月10日発行

定価500円(本体485円)(〒61円)
年間購読料6,000円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1993 ISSN 0916-9830